東日本大震災における津波避難の社会心理学的考察

学生会員　東京都市大学　三枝大佑
正会員　東京都市大学　皆川　勝
元東京都市大学　中村遼太

1. はじめに

本研究では、東日本大震災を対象として，特に避難行動の選択の結果として多数の犠牲者を出した事例について，これを極低頻度の災害時における避難行動として捉え，人間の根源的本能や欲求に基づいて考察・分析することで，犠牲者を少なくするための効果的な避難行動戦略について基礎的資料を得ることを目的とする．

2. 人間の本能と欲求

(1) 社会心理学における欲求 [1)]

社会心理学によれば,社会的欲求及び動機・意図が人間の行動を引き起こす.Murray は,社会的欲求を 15 に分類したが,ここではそのうち,震災と避難に直接的に影響を及ぼすと考えられる達成,追従,秩序,顕示,親和,自律,養護,他者認知,支配,救護を考察の対象とし,内罰,変化,持久,異性愛,攻撃などは対象から除外した.

(2) 社会システムに影響する人間の本能 [2)]

林によれば,社会システムは人間の脳の仕組みを可視化したものであり,人間が作り出した複雑な社会システムは,脳が本来的に持っている 3 つの本能に基づく欲求を満たすように作り出されてきた.それは,生存欲求,知的欲求,集団欲求である.

一方,生まれてから成長すると共に脳も成長し,自分を守りたいという「自己保存」の本能が育つ.過剰な自己保存は,自分とのつながりを持つ周囲の人や自分自身をも傷つけることとなる.これを「自己保存の過剰反応」と呼ぶ.同時に「統一・一貫性」の本能も育ち,これはプラス面とマイナス面を持つ.プラス面は,入手した情報を統一・一貫性に照らし合わせ,正しいか否かを判断し情報に新しい情報を加え展開させること,マイナス面は自分と異なる意見を受け入れることができなくなり,別角度からの視点を見失い,思考の展開ができなくなることである.本研究では,以上の生存欲求,知的欲求,集団欲求および自己保存本能,統一・一貫性本能を考察の対象とする.

3. 課題に対する事例と社会心理学的考察

本研究では，避難行動阻害要因のそれぞれの課題に対する社会心理学的考察を行う．その際，当事者に働いた欲求と本能を読み取る必要がある．考察する際の観点の違いから結論が変わってしまうことを避けるため，新聞記事の中でも記者の書いた文章は考察に組み込まず，当事者のコメントのみ採用し，それにより考察を行う．また,「津波は来ないであろうから避難する必要を感じない」という課題に対する事例として宮城県石巻市日和幼稚園の事例を考察する．この事例の考察には，判決文に記された事項のみを用いた [3)].

(1)「津波は来ないであろうから避難する必要を感じない」事例

この課題と強く結びついている宮城県石巻市日和幼稚園(以後，幼稚園という)での事象について考察する．幼稚園において，地震発生後，園児を乗せ出発したバスが渋滞に巻き込まれ，津波に流され添乗員１名，園児４名が犠牲となった．通常は，幼稚園より海側・山側に住む園児を２台のバスで各ルート毎に送迎するが,震災当時は１台のバスで園児を送迎した．また，この時送迎バスは幼稚園よりも海側の園児を送るため海側へ出発していた．海側の園児を自宅に送り届けた後，バスは一時門脇小学校に待機したが，園長からの「バスを戻せ」という指示が保育士より伝えられ再び出発した．その後に渋滞に巻き込まれ津波に流されたため,結果的に死亡した園児は全員幼稚園より山側に住む園児であった．この事例における地震発生当時の関係者の行動，その関連情報を整理し，さらに，園長，保育士，バスの運転手の三者に多くの欲求と本能，リスクが働き，それにより被害の拡大を導いてしまったことから，この場面について，三者の心理関係図を**図-1** に

キーワード　避難行動，欲求理論，社会心理学，津波
連絡先　〒1158-8557　東京都世田谷区玉堤 1-28-1　電話兼 FAX　03-5707-2226

示す．園長の知的欲求の欠落は，情報収集義務違反として震災後，保護者の提訴に結び付いた．また，バスの運転手や保育士の幼稚園あるいは園長への追従欲求や他者認知欲求により，被害の拡大を導いてしまったと言える．

(2) 「迷いが避難行動を遅らせる」事例

宮城県石巻市大川小学校(以後，小学校という)での事象について考察する．東日本大震災によって，小学校では全校児童の7割にあたる74人が死亡，行方不明となった．石巻市が定めた防災ハザードマップ，津波浸水予測図では，大川小学校は津波想定区域外であった．地震発生から大津波警報が発令されるまでの間、学校教諭から避難する指示はなく、教頭は保護者と議論を続けていた。大津波警報発令後、避難を開始したが、裏山ではなく学校から200m離れた三角地帯のたもとへ向かい，生徒・教員・住民は、津波に流されてしまったが、裏山に避難した生徒は全員無事であった。また，当時学校前にはバスが止まっていたが、バスによって避難することは無く歩いて避難することを選択した。これらから，関係者に働いた志向性，社会的欲求と本能を図-2に示す．

学校には支配欲求，自律欲求，養護欲求，生存欲求本能，集団欲求本能そして統一・一貫性本能が働いた．バス会社には，自律欲求，達成欲求，追従欲求，生存欲求本能，そして知的欲求本能が働いた．そしてバスの運転手には，学校とバス会社に対する追従欲求，負の自己保存欲求，生存欲求本能が働いた．学校とバス会社，バス会社と運転手には支配と追従の関係が成り立っている．そのため，学校と運転手には支配と追従の関係が成立する．バス会社は，運転手に女川町に大津波が襲来したという情報提供と，避難指示を行ったが，運転手の学校に対する自己保存欲求が働いた為，学校側からの指示を待ち自ら行動を起こすことは無かった．そのため，運転手の学校に対する自己保存欲求を負の自己保存欲求とした．また，本事例では，運転手の養護欲求と集団欲求本能が欠如していた．これらの心理が働けば，運転手自ら避難を助長し学校側へ情報を提供することにより，議論の時間を無くすことができたのではないかと考えられる．大川小学校に，明確な避難マニュアルが無かったこともこの議論の時間を生んでしまった要因である．

参考文献

1) 内藤誼人：手にとるように社会心理学がわかる本，かんき出版，2011.5.23.

2) 林成之：ビジネス〈勝負脳〉，ベスト新書，2009.2.11.

3) 判例秘書仙台地方裁判所/2013年第1274

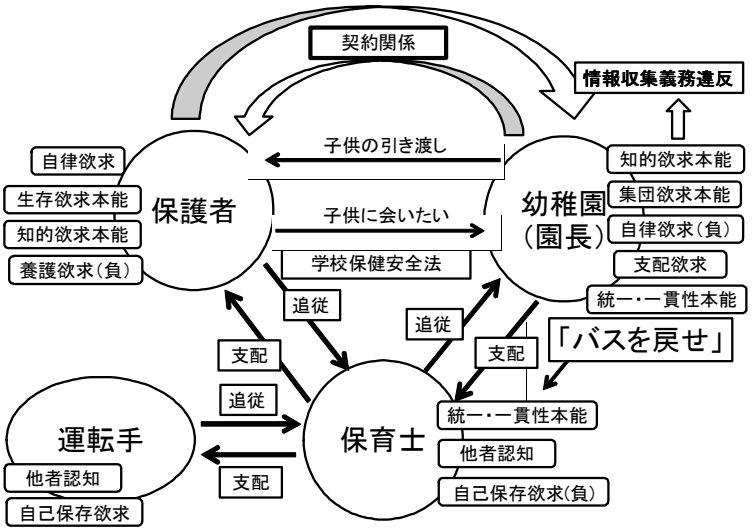

図-1 「津波は来ないであろうから避難する必要を感じない」事例における心理状況

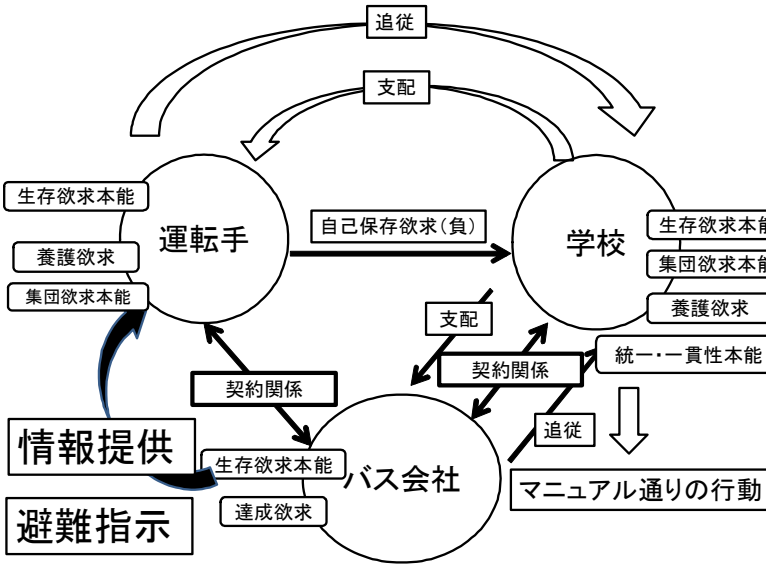

図-2 「迷いが避難行動を遅らせる」事例における心理状況